



敵討裏見葛葉

~ 13
3102
4



村忠 羽 全喜

歌討裏見葛葉卷之四

曲亭馬琴戲編



四天王寺小保名両箇の婦をらる附妖婦
和歌を詠ふくその児小別る事

安倍保名い葛の葉を伴ひく阿部野小まつり。まつ母の女
香を内小母も幸小恙あればゆくまつとび信太小の一
作のゆき告る小老母ハ真首因ガ信ある志をられく葛の
紫小名對面く言紫の管待涉くま時小保名をらくく
正覺庵の撰待風爐小入くく傳受の秘書を

書業言四



其集巻四



書きしる。さうさうも小皮の内小母へ入る。勢るむりの涙を
 志のひ足す。今も今も今も。今も今も。信太ある。白痴のあのみ
 をめく。命う。あふた。祥あり。あ母のあのみを保名。明白
 小吉さ。遠國ある。人小養せ。生死も。と。は。え。親
 あ。う。も。の。を。毒。毒。鬼。く。も。と。れ。ん。恥。う。う。小。の。年。來
 匿と。ね。ど。因。縁。の。絲。つ。あ。が。れ。く。と。り。ぬ。歎。を。と。る。う。と。と。語
 ても。あ。ま。ど。咳。入。ま。ぶ。保。名。葛。の。紫。も。ろ。た。小。脊。を。抱。か。り。く
 湯。を。ま。ぬ。く。せ。母。の。歎。を。推。量。る。も。が。身。も。あ。る。歎。め。く。夫
 婦。互。小。月。を。え。あ。い。せ。と。奇。く。縁。あ。る。う。も。彼。千。枝。も。悪。ち。

が奸計ふりく命は損せと。は。あ。い。ま。う。お。ま。の。男。の。難。言。又。第。の
 仇人。と。う。う。う。う。う。う。父。の。仇。又。小。男。の。難。言。あ。る。と。更。小。怒。は。怒。を
 う。も。憂。小。憂。を。う。も。う。も。う。も。老。母。ゆ。び。枕。と。あ。げ。や。保。名。と
 せ。い。ま。も。も。何。う。惜。ま。ん。夫。婦。遠。く。も。旅。も。も。悪。を。あ。つ。づ。往。を
 成。る。も。鳩。恩。稟。る。座。司。と。又。け。が。な。小。仇。を。軽。め。ん。も。願。の
 しく。と。地。も。あ。く。も。ひ。の。を。夫。婦。と。ま。ぐ。ひ。こ。う。も。母。と
 鳩。く。勤。小。母。の。歎。の。な。も。い。く。病。苦。の。あ。ま。う。小。を。え。く。葛。の
 紫。の。夫。と。も。に。寝。食。を。忘。れ。く。看。病。し。既。小。百。日。あ。ま。り。を。さ。う。し
 小。老。母。の。病。苦。少。く。せ。う。う。う。う。う。う。有。百。葛。の。あ。ま。り。姑。の。病。平

愈々新らんとく住吉の神社へ詣りておれし信太より与勘平に
ついで書きて其の葛が又書紙をいせとて保名封皮半切りてこれを
後小つら身へ亡夫の菩提のぶつとありて諸國を行脚いしを
せり一処不定の身まゝゆり。又仇人悪者あつが往方へ与勘平が索め
ぐるんとしあるまじく人ふまをせぬ母の紫在さん限りの夫婦の
傳へ信太小者病しぬり。仇人の相貌へ与勘平がよく認めしを
せり保名が索めぐるんより勝るべしとのるやさん小筆落しゆ
と書しぬ保名大小鷲馬よく姑別髪よく諸國行脚の志あり
いまも世足しあはざる前よりたゞえぬべ死をさそふべしとて

さうしぬるのつら葛の紫よくとあはるべしとて遺憾おぼしめ
せぬく還国せし葛の紫も住吉へ詣りぬる小後ものしとあり
小与勘平答へぬれりくととひ一衣をまげゆつれど聴ぬるま
ぬひぬそれが一又また同行の人ありと直小東國へ赴くを恨ん
むとせりくと一日も留りぬり。悪衣染つが往方へふ定めぬり
おとせりせりべし。又一月お強るとも音耗あつ仇人の住処は定り
あつとせりぬり。このつら葛の紫を保名も母もよりあつと
せりとも忽ち小走り去りて影さつるえとありぬり。諸國の紫
住吉よりより保名の書紙をいせとて保名は其の葛が又書を示しとて与勘平が

昔の
 又
 機を
 あり
 夫の生計を
 け
 童子が
 生さちの故
 あり
 教諭を

甘
 旬
 糸
 巻
 四



ひいりどもを吉ふ小葛の紫も驚た夏ひあぐら始の心を痛んとお
りむらあつても歎つて夜に丑三過る夜あまく布を織りこむを本
小換薪小換く夫の活業を助へ後小保名の頼く母を養つて
ろくろの限りありりくく次の年葛の紫の男の子を産たり保名
が母の初孫のふゆいぬれ塵ごまごま愛慈の童子と唱へて
ほろりきても去らせむと保名この光宗をそとく有日葛の紫の
うい身の切ある介抱やく母もやうやくとろくろのげんえぬい今年
家をまわれく遠く悪ちあつが往方派索んとあひい小今子を
挙く母の慈愛あつて心身是を等用小されが却くくが夫婦を

恨もあふあつていん身も童まが絆とあつて以前のでくまの母小
も速小志を遂んると難くねの晋の豫讓が故半に倣ひ仇人
の衣服と母の衣と刺く。志どその怨をまう。母のともか
うもありあつて後小謀らんと母のあつていつの昔の紫も
室のともいと理ありとあつて小旅く去年の夏正覺庵やく彼
あつてあつて衣服をとりや。とをを仇人小擬く夫婦のとも
くすく小切袈捨とれあり且く旅行のふゆいとまう。只明れ
神仏も祈念し。身成放やく。索あつて。悪右あつて命恙

あつたせぬと願ふまつらる。さる後小童より生育小童が
ひく。毎日小野遊をり。草小つと虫をとり。そのあつとら
又小似され。昔の紫のさくしひ戀うとま。始り彼を愛するもの
あつたせぬ。却る葛の紫さうら。一羽小童はひく。あつた
小つ。心の随小奉止つ。既小七歳小あり。夏保名母病終
子愈む。して身あり小つ。夫婦悲ふ。堪む。く。厚くこれを
花紫。追薦の佛の。小日。夏も過秋も九月。母の
亡母の中陰も。果小つ。保名その夜葛の紫。小つ。母の
と。来いと信や。小者病を。母も天年を。保名を。

あつたせぬ。今小つ。と。勘平も。小つ。その後
風の便も。と。頼む。これ。仇人の面を。怨らむ
と。あつた。別々を。守ら。と。童も。あつた。養育
魚と。葛の紫も。或は。夫が。後
準備を。この日母の百箇。當。保名の墓。と
又母の尊。眼を。天王寺の。起く。小
て。三入の旅。小行。あつた。ちりく。あつた。小
ま。勘平。小つ。あつた。且。物をも。あつた
るを。彼。も。保名。と。又。あつた。あつた。あつた。

後のいふあつたの持てたてぬのふりて是れいふりて物と
らひてゐる心持しきかゝる人への伝へ追答へて母の主従
之れ故郷信太をまぎへて諸國の灵場を順礼し之れ悪き
ゆへに身が仇人をもまじりまほしく後いふるは年ありあつた
身も母を思ひてこの世に在り葛の葉もあつていふまゝに奉
へていふより更し實はまゝの母の思ひをいふに似たり
らびやと保名等々眉を聳いれ過し年信太もいふに
難いゆへに幸ひ命を預けいふに似たり故ありて正覺庵
に侍せし秘書さうさういふまゝにいふに葛の葉のうら

跡を慕ひ来りてそのちと勘平がうらまへを葛の葉を
得りて近曾母の身まうりて百箇日の當をいふ墓を
旅のりものをも告仇人の往方いふとあつたまゝに審判物が
せり三人駭然とて且怪し且怖びていふ思ひてあつたされ
とゆ身を葬りてその頃母の身まうりあひていふも人付は
あつたいふに何れもいふに保名志を尋思へてこれをい
ふに今もあつたの葛の葉が日本彼をえれば且忙
然なる形容あるいふ故ともあつたがこゝに實の葛の葉
あつたゆへに信太の白札も彼をいふに信太のうらまへを



妖婦 葛の塚の首大の
 葛の塚の母子の母
 頼れるをちり
 蓋と一首の和歌
 を遺し忽ち地
 信太の
 毒へ
 うら

哀しとくさる
 なるも
 なるも

世に
 王
 王

の葉まよひく摘ぐ。又ゆも昔まぬらと。又彼人く。少七ばえ。ゆ
恥。や。も。元人間あ。音生の群。信太ある。林。小。一
強。瓶。あり。む。矢田部。定邦。小。二顆。の。あ。奴。集。れ。く。神。も。竭。と
む。九。万。八。千。の。眷。属。も。あ。つ。て。あ。ら。れ。る。朽。き。一。さ。小。忽。比。邪。念。を
起。一。定。邦。の。愛。妾。宮。本。奴。も。く。悩。せ。一。天。の。罰。や。蒙。り。ん。思。を。の
小。さ。い。な。ま。く。死。に。ぶ。り。一。を。母。の。心。を。保。名。と。の。小。助。け。ら。と。碎。一
一。顆。の。ま。あ。を。遂。に。輒。く。拾。り。と。の。底。の。う。れ。一。さ。小。一。び。恩。を
報。せ。んと。影。身。も。あ。と。と。付。添。一。小。和。泉。路。も。く。危。難。の。時。葛。の。あ
と。の。名。を。借。り。一。分。抱。一。ま。あ。ら。せ。一。さ。小。一。さ。う。ら。い。ひ。る。悪。を

が。行。包。あ。る。名。あ。ら。ふ。れ。と。の。人。彼。人。を。魅。一。後。小。夫。婦。の。中。を。裂
く。これ。の。あ。ら。有。明。の。寢。竟。く。の。う。い。ひ。小。ま。あ。く。舉。ぐ。悪。を
の。浅。く。ま。く。一。年。月。の。と。と。が。ら。程。初。ま。んと。あ。ら。ふ。あ。ら。う。と。
今。既。小。縁。盡。く。實。の。葛。の。紫。母。子。の。衆。の。地。一。つ。り。ま。あ。を。あ。海
阻。ん。も。罪。あ。く。假。初。あ。ら。ぬ。妹。夫。の。中。を。八。年。以。来。遠。け。一。さ。小。憎
一。と。あ。ら。せ。一。さ。小。と。あ。ら。せ。一。さ。小。今。ま。小。一。さ。ぬ。む。一。さ。小。あ。ら。小。倭。文。の。帝
環。ら。う。一。さ。小。ま。あ。る。機。の。梭。を。一。さ。小。ま。あ。る。教。も。入。ら。小。あ。ら。ぬ。と。
け。あ。ら。の。葛。の。紫。の。を。産。の。母。也。と。あ。ら。一。さ。小。一。さ。小。野。一。さ。小。遊。ひ
草。に。入。り。虫。を。吹。能。あ。一。さ。小。あ。ら。一。さ。小。あ。ら。の。名。を。も。活。せ。一

つれづれとありしを只顧慕ふも正しあり。せむくこのまゝ十わ
まり。ほり。たつ。あも。ある。後。の。養。育。も。せむ。く。元。の。舊。果。つ。り
の。妬。ま。ん。ま。ら。し。ひ。ら。他。一。妻。心。も。わ。い。あ。へ。ふ。か。身。が。名。を。面。の
。他。と。七。年。八。年。の。あり。姑。母。の。つ。つ。入。操。正。一。く。夫。の。赤。眉
。あ。る。と。因。り。あ。ど。憎。一。と。妬。一。と。ま。ら。し。ひ。ら。の。見。も。ら。産。の。子
。小。異。あ。ら。び。び。く。赤。心。を。告。ぐ。く。ゆ。ら。び。形。を。頭。一。と。の。ま。り。見。え
。あ。う。一。と。の。う。づ。う。た。は。説。の。母。の。ま。葛。の。後。と。も。小。こ。ら。か。お
。も。初。孫。と。ど。い。と。ど。可。愛。の。ま。も。の。の。あ。は。血。を。と。け。産。子
。一。の。の。を。捨。て。め。く。名。残。い。と。惜。ぐ。め。と。果。一。を。た。ま。ぐ。悔。歎

か。と。勤。平。も。感。激。一。拳。一。拭。の。涙。と。落。く。鎌。鬚。ゆ。ら。く。保
。名。も。ね。回。歎。息。一。く。人。間。あ。ら。ぬ。身。も。又。再。生。の。恩。の。ま。の。の。と。
。それ。知。く。と。も。も。及。び。と。母。の。在。り。な。く。と。い。ひ。あ。ら。う。恩。の。あ。る。
。憎。む。と。身。の。仇。人。を。も。妙。の。ま。と。一。く。他。小。年。月。を。と。と。一。と。を。面。目。を。け
。と。面。目。が。と。と。小。身。を。あ。の。せ。一。と。を。を。あ。ら。ぶ。が。あ。れ。が。明。向。小。れ
。を。贈。ら。ば。彼。も。又。自。在。を。得。く。今。あ。ら。の。も。母。吾。儕。が。守。護。神。と。も
。あ。ら。ん。ま。ら。輒。く。仇。人。を。討。つ。ゆ。ら。ん。と。わ。ら。が。ら。う。童。子。の。あ。ら。ぬ。く
。信。太。の。森。に。到。る。べ。し。の。後。ま。と。ま。ま。れ。つ。葛。の。葉。母。子。も。め。ろ。を
。小。は。ん。と。の。を。保。名。と。や。く。今。入。り。成。伴。り。彼。又。取。つ。め。あ。ら。ぬ。と。



姉婦ふらふら
 形をわらわ
 保名ま重子
 見えく仇人
 悪右あつと
 告了

其の無名四



まろ小孫馬死怕也保名の只忙致と夢路をせりどくあり結也
 まろ葛葛の紫与勤平の保名童子がるるゆとありその跡を
 追く阿部野より来りし保名の彼人く小白狼が告ぐる仇
 人の為体を説示と小三入のゆれとれを笑くあう飲ひおつれ
 ちち信太の郷小立帰り年を強く朽まらりし舊の宅をり
 死拂く入る小を懐舊の涙もどじとびらるる。



敵討裏見葛葉卷之四 畢

